



スポーツでもビジネスでも「チーム」で「ワーク」するというのは同じ。組織や集団を構成するすべての人が幸福感や充実感（Well-Being）をもつて成長し、成果を上げるために仕組み仕掛けづくりを研究しています。

略歴

社会人野球（銀行勤務）でプレーした後、スポーツ専門学校2校、高等学校3校で18年間体育科教員として勤務。高等学校ではクラス担任や学年主任、生徒指導部長などを歴任。着任したすべての学校で硬式野球部の指導をし、また地域でも学童野球指導にあたる。2016年に日本工業大学に着任。現在は大学勤務の傍ら、一般社団法人、NPO法人の理事を務め、指導者育成や野球の普及振興、コーチングの啓蒙、また不登校児童生徒支援に従事している。

研究紹介

コーチングやチームビルディングで「人を育てる」を研究



スポーツに取り組む子どもたちの 非認知能力の獲得に関する研究

小中高のスポーツチームでは、大会や試合における勝ちだけでなく、所属する子どもたちの非認知能力（ジェネリックスキル、社会人基礎力等）の向上が期待されています。そこで、子どもたちがどのような能力を獲得し成長するのかを客観的に検証し、今後の子どものスポーツ指導の在り方、チームビルディングの指針としていき令和時代のニーズにあったスポーツ指導を研究しています。

チームビルディングの研究と教育・実践

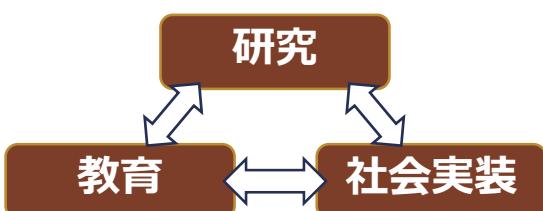
チームを作るときには、自己理解や他者理解を通してチームの構成員のことをよく知ることが大切です。そこから設定した目標（ゴール）に対して、チーム内で役割を作ったりどう行動していくのかを考えていきます。構成員のオープンマインドやアウトプットを通じ、個々の自己有能感の醸成や適切な行動変容が生まれることを期待しながら、関わる誰もが幸せなチームになるよう働きかけをしていきます。

こうしたことを学ぶために本学内はもとより、小中高のスポーツチームの選手や指導者に向けたワークショップを開催しています。



研究室から教育・社会実装へ

本研究室では常にインプットとアウトプットを繰り返し、研究・教育・社会実装をセットとして考えております。



主な研究実績

- ・元プロ野球経験のある高校野球指導者が持つコーチング観（渡邊、松井ら,日本野球学会第1回大会,2023）
- ・高校野球部活動において生徒が獲得する非認知能力（社会人基礎力）についての基礎研究（日本体育・スポーツ・健康学会第72回大会,2022）
- ・学童野球におけるチームづくりとマネジメントに関する研究（日本体育・スポーツ・健康学会第71回大会,2021）